

岐 阜 県 の 魅 力 発 信 ・ 向 上 対 策 特 別 委 員 会 記 録

<p>1 会議の日時</p>	<p>開 会 午前 9時57分          令和 8年 3月 3日          閉 会 午前 10時30分</p>	
<p>2 会議の場所</p>	<p>第6委員会室</p>	
<p>3 出席者</p>	<p>委 員</p>	<p>委員長 岩井 豊太郎 副委員長 水野 正敏          森 正弘 水野 吉近 国枝 慎太郎          酒向 薫 今井 政嘉 牧田 秀憲          判治 康信 今井 瑠々 和田 直也</p>
	<p>オブザーバー</p>	<p>なし</p>
	<p>傍聴議員</p>	<p>なし</p>
	<p>執行部</p>	<p>別紙配席図のとおり</p>
<p>4 事務局職員</p>	<p>課長補佐兼係長 水野 智裕 主査 脇若 知香子</p>	

5 会議に付した案件	
件名	審査の結果
1 令和7年度中間報告について	原案了承
2 その他	

## 6 議事録（要点筆記）

### ○岩井豊太郎委員長

ただいまから、「岐阜県の魅力発信・向上対策特別委員会」を開会する。

本日の委員会は、本委員会の「令和7年度中間報告」についてご協議をいただくため開催した。

中間報告案については、あらかじめ準備し、お手元に配付してあるとおりである。

### ○岩井豊太郎委員長

この中間報告案について、意見等はあるか。

（意見なし）

### ○岩井豊太郎委員長

意見もないようなので、本文案のとおり決定したいと思うが異議はあるか。

（「異議なし」の発言あり）

### ○岩井豊太郎委員長

異議がないようなので、そのように決定する。

議題については以上であるが、せっかくの機会であるので、委員の皆さんから、今年度の参考人招致、視察の感想や、来年度の調査内容の希望など、ご意見をお願いしたい。

### ○和田直也委員

特に「岡山電気軌道（株）」の視察について、バスは地元利用者が大半で、路面電車は初めて利用される方が多いといった話が印象的だった。全国で似たような事例もあるので、本県のLRTの構想においても参考にできると良い。

また、県内にも様々な魅力がある中で、直島（香川県にあるアートの島）の取組などを勉強させてもらったので、次年度はより一層踏み込んだ発言をしていきたい。

### ○今井瑠々委員

各視察の中で、隣県愛知県での、「GIFTS PREMIUM」の活用手法や、「STATION Ai」における様々なイノベーションを起こすための工夫などを学ぶことができた。また、今年開催されるアジア・アジアパラ競技大会についても、国際情勢が不安定なところではあるが、愛知県、岐阜県が連携し、大会後のレガシーも含めて成功できるよう取り組んでいただきたい。

また、県内唯一の国立高専である「岐阜工業高等専門学校」の視察に関しては、高校再編が進む中で重要な教育機関であり、大変参考となった。来年度は県外の高専を視察し、先端技術の人材育成の状況を見てみたい。

### ○判治康信委員

直島の視察など、現地で見ると感じる空気には価値があると感じている。岐阜県には大きなポテンシャルがあると考えており、中間報告にも記載されているとおり、「そこにしかない存在となる」ため、トライアンドエラーを繰り返しながら、地域の価値を高めていく取組が必要である。最初は万人受けしない取組もあるかもしれないが、そうしたところから広がるものは必ずあるため、注視しながら委員会活動を進めていきたい。

### ○牧田秀憲委員

魅力発信について、中間報告にある調査概要のとおり、SNSやテレビなどを活用した取組について、来年度、委員会として検討していきたい。

### ○今井政嘉委員

直島の視察では、アートを活用して地域を変えてきた事例が印象的で、観光地でありながら騒がしさが少ない点など顧客の層をうまく捉えていると感じた。一方で、観光地名が前面に出ることで県として意識されにくくなる課題もあり、魅力発信の方法の奥深さについて、改めて実感した。

○酒向薫委員

他県の取組を学ぶことができる本委員会の現場主義の重要性を強く実感した。ただ視察して終わるのではなく、岐阜県においても取り組むべきことを整理していく必要があり、体験型の観光もやっていかないといけない。特に、本の貸出数が5年連続で1位である「岡山県立図書館」について、子どもの本離れが進む中、岐阜県においても参考にできる部分はあると思う。

また、地元の刃物業者の話を伺い、灯台下暗しで、「こんな事業をやっていたのか」という実感を持った。昔から岐阜県は「作り上手・売り下手」とされており、当委員会として魅力発信・向上に取り組む必要性を感じた。

○国枝慎太郎委員

本委員会で様々な場所を視察させていただいた。特に「STATION Ai」では、国を支えていく人材が集中する一方、岐阜県の人材が愛知県へ流出しているという現実を感じた。先日岐阜大学の学生と意見交換を行ったが、多くの学生が県外に出ていくと言っていた。産業・観光において、選択と集中を課題として実感した。

○水野吉近委員

多くの視察の中で新しい発見があった。「STATION Ai」には、既存産業と新たな人材が情報交換でき、資金調達などの様々なサービスを受けられる環境が整っていた。愛知県と比較するのは厳しいと思うが、ワンストップで交流できることの必要性を感じた。

また、「岐阜工業高等専門学校」の視察では、学生の優秀さを実感した。こうした方々に県内で活躍してもらうため、人材育成という観点からも取り組んでもらいたい。

○森正弘委員

岐阜県の多くの魅力を県内、海外に発信していくことも大事だが、就職や結婚で県外へ行ってしまふ若者へ魅力を発信できていないことが課題となっている。特に若い県民に対し、執行部においても、県内で活躍してもらえよう魅力発信してもらいたい。

○水野正敏副委員長

「岐阜工業高等専門学校」を視察し、昔の高専のイメージとは違う明るい雰囲気や、女子学生が活躍している姿が見られ、発見だった。議員の中でも年齢に差があり、年々重ねていく中でも固定観念に捉われず、いつまでも新たな気持ちで議員活動をしないといけないと改めて実感した。

○岩井豊太郎委員長

貴重な意見をいただき感謝する。様々な委員会を担当する中で、現場主義を重視してきた。来年度も本委員会を続けていく中で、私の意見も言わせていただくが、皆様からも是非意見を言っていただき、意義のある委員会活動をしていきたい。執行部においても本委員会活動の中で学んだことや本日の中間報告での委員の意見を、県政に反映して取り組んでいただきたい。

○渡辺観光文化スポーツ部長

様々なご指摘をいただき感謝申し上げます。執行部としても、様々な視察、参考人招致に参加させていただいた。今井政嘉委員ご指摘のとおり、県内各地域の魅力と県全体の知名度との兼ね合いが課題と認識している。県内各地域の知名度がある一方で、岐阜県ということが知られていないため、各地域で磨き上げられた資源をつなぎ、岐阜県の魅力を向上させる取組を進めていきたい。

また、森正弘委員からご指摘のあった県民への魅力発信を進めるとともに、令和7年の本県の外国人延べ宿泊者数が過去最高を記録するなどの海外での評価を踏まえ、中国政府の日本への渡航自粛の影響なども注視しつつ、委員の皆様のご意見を真摯に受けとめながら、各部局とともに岐阜県の魅力度向上対策に取り組んでまいります。引き続き、ご指導をいただきたい。

○岩井豊太郎委員長

来年度も現場主義で委員会活動を行いたい。

以上で本日の委員会を閉会する。

岐阜県の魅力発信・向上対策特別委員会 配席図

令和8年3月3日

第6委員会室

